こだわりの改修が、同一スペースに広さと快適さを生み出した。

ピンクの優しい色合いの女子トイレ。以前は扉を開けられない患者さんのためにアコーディオンカーテンを採用していたが、プライバシーに配慮しながらラクに開閉できる、安心のブースへと改良した。

ドクターヘリも運航している高度医療の拠点である。

［獨協医科大学病院トイレ改修工事］
- ●竣工年月／2011年8月
- ●所在地／栃木県下都賀郡壬生町北小林880
- ●施主／学校法人獨協学園 獨協医科大学病院
- ●施工／株式会社関電工

Before 改修前のトイレブース

アコーディオンカーテンは、プライバシー確保の面で不安の声もあった。

男子トイレのカラーは、いわゆる獨協ブルー。明るい床の色は男女共通である。カラフルなドアがスペースデザインを高めるとともに、視認性が高く識別しやすいことも大きなポイントとなっている。

機能性とデザイン性に優れた安全・安心で快適なブースに改修。

アメニティ空間としてのトイレを重視し、できるだけ広く快適に使うための改修が、以前は脳神経外科だった4Fフロアから行われました。患者さんがカラダを反転させてトイレに入るような窮屈さや苦労を解消するため、アール型のドアがスライドするトイレブースを採用。スムーズな開閉と出入りができ、限られた空間でも動きやすく、点滴患者さんにも優しいスペースであることが特長です。

また和式から洋式便器への切り替えを、配管工事のない和洋リモデル工法で実施。入院患者さんがいる中で改修が可能となり、省スペース設計とともに、同一空間での画期的な改善を実現しています。

Voice 経理部施設課からの声

これからの同一基準を考えたいです。

獨協医科大学病院
経理部施設課 兼 大学病院施設課
課長補佐
渡邉浩巳さん

最初に私がレイアウトのパターンを何十枚もつくり、3D-CADで図面を描いて検討を重ねてから、関電工さんにお渡ししました。施設の担当者が設計することがとても重要であり、病院のトップや現場にも説得できますし、何かあったときすぐに直すこともできます。今後は、トイレ設計の同一基準をつくりたい。紙巻器の位置ひとつでもしっかり統一するなど、患者さんの使い勝手を重視しながら、気くばりのできる病院になっていきたいですね。また、新棟を建てる際は、病院全体、特に外来のトイレの数を増やしたいと考えています。

Voice 事務部施設課からの声

時代のニーズに応えることも大切ですね。

獨協医科大学病院
事務部 施設課 主任
神村広樹さん

病院のトイレにも時代の変化があります。今はやはり乾式、ウォシュレットで節水タイプが良いですね。今後は病棟の臭い対策に取り組みたいです。

増築した多目的トイレには、多目的シートなども備えられている。さらに専用のクーラー付きで、いつでも快適に利用できる。

Voice 設計担当の方からの声

騒音を抑えられ、短工期でいいですね。

株式会社関電工
栃木支店
営業部　施工チームリーダー
宮澤鋭さん

当社の本社食堂近くのトイレで、このブースをはじめて目にし、これは良いと感じて、最初は獨協医科大学様に提案させていただきました。大学様はほとんどこのタイプで改修され、引き続き病院様でも採用されています。

和洋リモデル工法もたいへん優れていて、一般的な工事でコンクリートを壊す時に出る激しい振動音がなく、コンクリートをシャーッと切ることで騒音を抑えることができます。もちろん短工期ですから、負担が少ないこともいいですね。